



「ヤマメ」とともに成長する、子どもたちの「心」

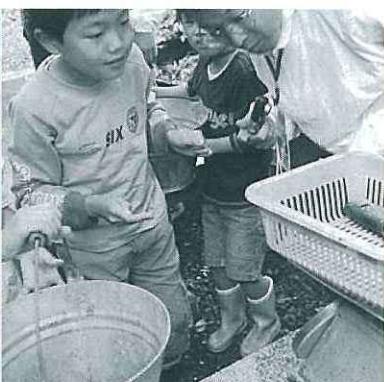
「やまめっこクラブ」の活動が今年も始まっています



最後に集合写真「また会う日まで元気で！」



元気に育って・・・と願いを込めて



捕まえたヤマメは何グラム？

町の合併により、5年間続いたこのクラブは一度解散となりました。しかし、保護者・子どもたちからの強い要望で再開。現在は、町全域から約30人の子どもが参加し、より積極的に活動中です。また、袋井市のクラブとの交流など、学区を越えた子どもたちの交流の場も生まれました。

黒板に書いた授業だけではなく、「自分で体験」して学ぶことも必要

主催者の山口さんを、陰で支える奥さんに話を伺いました。

「宮島先生が良いきっかけをくれたんです。黒板に書いた授業だけではなく、こういう『体験する学習』は、ずっと子どもの心に残っていくと思います。自分たちで卵から育てて、やがて魚の形になっていく。そして放流して、川で大きく育つてねと願う。普段の日にもヤマメが気になつて、水槽をのぞきに来る子もいるんですよ、微笑ましいんですね」と光恵さん。

子どもたちに、何か「この町の誇れるもの」を残せないか

山口捷彦さんは言います。

「ヤマメの養育を通して、子どもたちは生き物の尊さを学ぶ。同時に、それらを食べて自分たちが生かされているということも学んでいく。育てる学習と食べる学習。どちらも

ここでの体験が、夕飯どきの家族の会話になつたら嬉しい

「生きる」ことを考える大切な体验だと思う。ふだん家では魚を食べない子が、自分で育てたヤマメを『美味しい』と言つて食べるんだよ」「地域の子どもたちに何か『町の誇れるもの』を残したいんだよね。お茶にしても、魚の住む川にしても。誰かがやらないと、どんどん忘れていいってしまうもの。

自分たちが住むこの町のこの自然は、他に誇れる素晴らしいものなんだということが知つて欲しいんだよ」

また、「最近、夕飯での会話が乏しい家庭が増えていると聞く。テレビにばかり夢中になつて、ろくに会話もしないなんて、家族としてすぐ寂しいことだよ。このクラブで体験したことを、夕飯どきに親子で話してもらいたい。楽しかったこと、大変だったこと。そんな家族の会話のきっかけになれたら嬉しいんだよね」と山口さん。

「子どもがにぎやかなのが好きだから」と話す山口さんは、より一層元気な声で、子どもたちの輪の中に入つていきました。

今後、7月28日の袋井市との交流など、継続的に活動を行つていく予定です。お子さんがいる・いないに関わらず、興味を持たれた方は、ぜひご連絡ください。

「田舎家」：電話（59）3309